（学校番号２５７）令和４年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【浦和中学校】

① 4月28日

目標・策			
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査の国語・数学・理科の「知識・技能」において、平均正答率９０パーセントを上回る。	⇒	「Morning Skill-Up Unit」や放課後学習会をとおして、基礎学力の定着を図る。また、学期ごとに生徒と学年教員で面談を実施し、最適な指導を実施する。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の国語・数学・理科の「思考・判断・表現」において、平均正答率９０パーセントを上回る。	⇒	「さいたまSTEAMS教育」の実践を重ね、各教科における教科横断的な指導により、思考力を育てる。そして論理的に表現することができるよう研究、実践する。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」という項目で、肯定的な回答９０パーセントを上回る。	⇒	「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させ、自ら考え、探求する場面を積極的に設定し、自分の考えや意見を他の生徒に自信をもって伝えることができるよう指導する。

② 8月31日

全国学力・学習状況調査結果	

全国学力・学習状況調査結果・分析

R４年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国平均と自校の結果を比較すると、国語+20.6pt、数学+32.9pt、理科+25.7pであった。
全体的に正答率が高かった。国語では「事象や行為、心情を表す語句について理解する」、数学では「多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している」、理科では「水素の燃焼を分子のモデルで表した図を元に化学反応式で表すことができる」の項目が特に高かった。一方で理科の「物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうか」の項目で正答率が低かった。

R４年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国平均と自校の結果を比較すると、国語+25.7.pt、数学+43.3pt、理科+30.6ptであった。
国語では「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する」、数学では「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」、理科では「結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの研究の方法について検討し、探究の仮定の見通しをもつことができる」の項目の正答率が高かった。

R4年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」という項目で、全国平均を上回ったものの、肯定的な回答が76.3%にとどまった。一方で「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の項目では、肯定的な回答が96.3%だった。これらのことから、課題の解決に向けて積極的に取り組んでいるものの、工夫して発表まですることができたかが課題として考えられるため、今後もより一層の授業改善に努める。

③ 9月30日

中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）			
知識・技能	「変更なし」	⇒	
思考・判断・表現	「変更なし」	⇒	
主体的に学習に取り組む態度	「変更なし」	⇒	

④ 2月21日

さいたま市学習状況調査結果・分析

中１	R４年度さいたま市学習状況調査の市平均と自校の観点別正答率を比較すると、「知識・技能」において、国語+24.9pt、社会+30.1pt、数学+25.1pt、理科+22.7ptであった。「思考・判断・表現」において、国語+19.3pt、社会+22.0pt、数学+23.2pt、理科+26.9ptであった。 全体的に両観点とも市平均よりかなり高い結果となった。しかし、国語では「話すこと・聞くこと」、社会では「公民的分野」、数学では「図形」、理科では「「粒子」を柱とする領域」に伸びしろを感じられるため、教科ごとに課題を分析していきたい。
中２	R４年度さいたま市学習状況調査の市平均と自校の観点別正答率を比較すると、「知識・技能」において、国語+24.4pt、社会+20.4pt、数学+31.1pt、理科+15.8ptであった。「思考・判断・表現」において、国語+16.6pt、社会+23.6pt、数学+34.3pt、理科+24.4ptであった。 全体的に両観点とも市平均よりかなり高い結果となった。しかし、国語では「書くこと」、社会では「地理的分野」、数学では「関数」、理科では「「地球」を柱とする領域」に伸びしろを感じられるため、教科ごとに課題を分析していきたい。
中３	令和４年度さいたま市学習状況調査【生活習慣に関する調査】の市平均と本校の肯定的な回答を比較すると、「学びに向かう力等」において、「勉強は好きですか。」という質問に社会+3.9pt、数学+14.7pt、理科+10.5pt、グローバル・スタディ+9.1ptだったが、国語では-14.7ptだった。一方で「国語の授業の内容はよく分かりますか。」という質問には+5.4ptだった。興味・関心をもって、意欲的に学習に取り組めるよう、授業改善を図っていきたい。

⑤ 2月28日

成果指標に対する達成状況		評価（※）
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、平均正答率が国語は89.6%、数学が92.8%、理科が71.8%だった。 数学のみ、目標としていた「平均正答率９０パーセントを上回る。」を達成したが、国語では-0.4pt、特に「情報の扱い方に関する事項」で正答率が68.4%だった。理科ではは-18.2ptだった。特に「「エネルギー」を柱とする領域」で正答率が57.0%だった。	B
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、平均正答率が国語は88.0%、数学が79.5%、理科が81.6%だった。 全ての教科で目標としていた「平均正答率９０パーセントを上回る。」を達成できなかったが、国語では６問中３問、数学では５問中１問、理科では１４問中５問が正答率９０パーセントを上回った。	B
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」という項目で、肯定的な回答が76.3パーセントだった。	B

※評価
A　８割以上（達成）　　C　４割以上（あと一歩）
B　６割以上（概ね達成）　D　４割未満（不十分）

⑥ 3月10日

次年度への課題と改善策	
知識・技能	「知識・技能」においては、全体的に高い平均正答率となった。次年度に向けて各学年、教科で分析・検討を進めていく。今後は「知識・技能」の習得は概ね良好と言える中で、自発的に興味・関心があることを学習し、「何をすることができるのか。」を考えさせていきたい。教科書に書かれていることだけを機械的に覚えるのではなく、日常的に「なぜ」を与え、知的好奇心をもって、自ら学習に取り組むことができるよう普段の授業の工夫・改善に取り組んでいきたい。
思考・判断・表現	本校では令和2年度より「さいたまSTEAMS教育」の研究委嘱を受けている。各教科で学習した内容を普段の学校生活や総合的な学習の時間において活用できるよう、研究を進めている。R4年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」の項目で肯定的な回答が98.8パーセントを記録し、思考・判断・表現において高い正答率が表すように、結果につながっていると言える。
主体的に学習に取り組む態度	令和４年度さいたま市学習状況調査【生活習慣に関する調査】の「学びに向かう力等」において、市平均と本校の肯定的な回答を比較すると、「勉強は好きですか。」という質問に中学1年、2年、3年において、ほとんどが市平均を上回っている。また定期テスト前の放課後学習に多くの生徒が参加し、積極的に教科担当に質問に行くなど、本校には主体的に学習に取り組む生徒が多いことが分かる。今後も生徒の興味関心を引き出すような授業の工夫・改善につなげていきたい。